北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	観光研究ゼミナールⅠ	科目コード	1233	単位数	2
担当者名	深澤　史樹	開講セメスター	第4セメスター	開講年次	2年次
授業の方法	演習	到達目標	F,H	実務経験	無
ナンバリング	LSe401	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

・当ゼミでは、「調べて、書く、他者に伝えるためのプレゼンテーションができる」を目標に、そのために必要な方法論を学び、少人数で実践的訓練を行う。さらに、書籍やネットの世界のみならず、現場主義を大切にするために可能な限りフィールドワークなども取り入れる予定です。
・具体的には、輪読を通した演習形式とする。学生が司会者、報告者、討論者となり積極的な議論の場を通して、ディプロマ・ポリシーにある、豊かな人間形成における幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけるとともに、修得した知識および技能により、自ら課題を発見し解決する能力を身につける場とする。

到達目標

・自分が知りたい「情報」をどのようにして引き出すのかを理解できる。具体的には、ネットからの引き出し方、図書館（学術データベース）からの引き出し方、直接的に人や現場に接する（ヒアリング調査等）によって情報を引き出すことができるようになる。
・集めた情報を整理、分類してまとめる、つまり「書く」ことができるようになる。
・自分がまとめた内容を、他者へ伝える、つまり「プレゼンする」ことができるようになる。
・他者の主張を理解し、まとめる能力を養う。

授業内容

1週目 ガイダンス（ゼミでの約束事項の確認、ゼミ内での役割分担の確認、輪読やフィールドワークに関する意見交換）
2週目 輪読のための書籍選定と決定
3週目 輪読開始　輪番者による報告発表と議論①「序章・第1章」
4週目 輪番者による報告発表と議論②「第2章」
5週目 輪番者による報告発表と議論③「第3章」
6週目 輪番者による報告発表と議論④「第4章」
7週目 輪番者による報告発表と議論⑤「第5章」
8週目 輪番者による報告発表と議論⑥「第6章」
9週目 輪番者による報告発表と議論⑦「第7章」
10週目 輪番者による報告発表と議論⑧「第8章」
11週目 輪番者による報告発表と議論⑨「第9章」
12週目 輪番者による報告発表と議論⑩「第10章・終章」
13週目 フィールドワークのための準備
14週目 フィールドワークの実施
15週目 フィールドワークの振り返り
16週目 ゼミナール全般に対する講評。但し、やむを得ず、15週目までのゼミナール内容を実施できなかった場合は、補講授業を行います。

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・広く文章に触れる機会を多く作ること。大量の文章を読むことにできるだけ慣れておくこと。
・レポートなど文章を書く機会を多く持つこと。苦手意識の克服が必要。
・パソコン（特にキーボード入力）を多用するので慣れておくこと。
・輪読する書籍について、事前学習として読み、内容やポイントを把握しておくこと（所要時間：90分）。また、事後学習として、報告者のレジメやゼミで議論された内容を反芻し、さらなる考察を促すために課題を課すこともある（所要時間：90分）。

成績評価の方法・基準

・ゼミ活動を通じて、司会者、報告者、討論者の役割をきちんと理解し、積極的に参加しているか。とりわけ、報告者としてその義務を果たすことを重要視します（80%）。
・学生自身でタスク管理（時間や期日を守る）がなされているか（20%）。

履修上の留意点

・成績評価は、11週以上ゼミナールに出席した学生を対象とする。
・ゼミナールは授業ではありません。常に主役は学生であり、やるべきこと（開始時間を守る、レジメ印刷・配布は完了している、活発に議論するなど基本的なゼミ参加への姿勢）がなされなければゼミは時間通りに終了することができず、予定時間を超過することがあります。したがって、ゼミ終了後にアルバイトなどの予定は入れないなど注意をお願いいたします。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回、報告者へは報告内容、レジメの書き方やプレゼンの方法、司会者へは司会の進め方、議論の進め方、討論者へは議論へ参加する態度等、良かった点や課題などゼミナールの講評を行う。
・ゼミナール時間外においても、学生の要請に対して直接もしくはLMSを利用してフィードバックなどの支援をする。

テキスト

輪読で使用する書籍の決定後、明示する。

参考書

石黒圭(著),『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）,2012年,1,400円+税

更新日付

2026/01/16 12:30